



金属資源情報

平成 29 年 1 月 25 日 No.17-03

ニュース・フラッシュ

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 調査部

ニュース・フラッシュは、インターネットでも御覧になれます。記事検索も行えます。

<http://mric.jogmec.go.jp/>

[中南米]

- ペルー：JDL Gold 社、Koricancha 金処理プラント操業再開
- ペルー：Niñobamba 銀プロジェクト、隣接鉱区を買収
- ペルー：Tahoe Resources 社、探査状況を報告
- ペルー：Los Chapitos 銅プロジェクト、東部ボーリング調査の EIA 承認
- ペルー：Caylloma 鉱山、2016 年第 4 四半期生産報告
- ペルー：Coricancha 鉱山、Great Panther Silver 社の買収完了は 2017 年第 1 四半期
- ペルー：Prism Resources 社、Huampar 銀金鉱山再開を発表
- ペルー：Tamayo エネルギー鉱山大臣、政府公布の法令について国会へ説明
- ペルー：Dynacor 社、新規金鉱石処理プラントでの 2016 年第 4 四半期生産量を報告
- ペルー：Toquepala 鉱山拡張プロジェクト完了は 2018 年第 1 四半期
- ペルー：鉱業プロジェクトにおける先住民事前協議の実施状況
- ボリビア：Vinto 錫製錬所、2016 年の錫生産量は 13 千 t
- エクアドル：大統領選有力候補者の鉱業政策
- コロンビア：Angel Gold 社、El Porvenir 金銀プロジェクトのための新たな水利権取得
- コロンビア：Gran Colombia Gold 社、2016 年第 4 四半期生産量発表
- グアテマラ：加 Goldcorp 社、Cerro Blanco プロジェクトを加 Bluestone Resources 社に売却
- メキシコ：2016 年 11 月の鉱業指数、改善傾向
- メキシコ：加 Defiance Silver 社、San Acacio 銀鉱床

(Zacatecas 州) の鉱業権を取得

- メキシコ：2017 年加 Great Panther Silver 社事業計画
- メキシコ：米 Gold Resource 社、Aguila プロジェクト (Oaxaca 州) 探鉱結果を公表
- メキシコ：加 Endeavour Silver 社、メキシコに保有する 3 鉱山の 2016 年生産量を公表
- メキシコ：加 Goldcorp 社、Los Filos 鉱山の売却を進める
- メキシコ：加 Timmins Gold 社、2016 年第 4 四半期及び 2016 年の生産結果を公表
- メキシコ：El Boleo 多金属プロジェクトの 2016 年生産量、当初計画を大きく下回る
- メキシコ：豪 Zenith Minerals 社、新たにリチウム探鉱プロジェクト権益を取得
- メキシコ：Orex Minerals 社、Canasil Resources 社と JV 契約を締結
- メキシコ：メキシコ国内に稼働鉱山を保有する加 First Majestic Silver 社、米 Argonaut Gold 社、加 Avino Silver and Gold Mines 社の 2016 年生産量
- ジャマイカ：加 Carube Copper 社、豪 OZ Minerals 社が保有する Bellas Gate プロジェクト等の権益を取得

[北米]

- 米：Taseko 社、Florence 銅プロジェクトの経済性評価を更新
- 加：Denison Mines 社、Wheeler River ウランプロジェクトの権益増加へ
- 加：Premier Gold 社、Hasaga 金プロジェクトの鉱量計算結果を発表

[欧州・CIS]

- ロシア：Norilsk Nickel 社、Rostec 社から含銅原料を購入
- ロシア：世界最大のチタン鉱床開発へ
- ロシア：VSMPO-AVISMA 社と Boeing 社、合併拡大へ
- ロシア：Norilsk Nickel 社、ニッケル精錬システムを再編中
- ロシア：Amur Minerals 社、Kun-Manie 鉱床の埋蔵量拡大を予定
- ロシア：Norilsk Nickel 社、VDM Metals 社と長期契約を締結
- カザフスタン：KAZ Minerals 社、カザフスタン開発銀行から 3 億 US\$ の融資獲得
- キルギス：中国 Full Gold Mining 社、Ishtamberdy 鉱床でドーレを初生産
- ウズベキスタン：AGMK、銅採鉱場拡張プロジェクトを完了

[オセアニア]

- 豪：鉱山や建設関連の労組が、海事労組と合併予定、連邦政府は阻止する意向

- 豪：NSW 州、鉱山の開発計画の認可の制度を改正し、審査の迅速化を図る
- 豪：コモディティ価格の回復でも新規投資は増加しない見込み（政府報告）
- 豪：連邦政府、2016/17 年度資源・エネルギー分野の輸出総額、過去最高を予想
- 豪：連邦政府、探鉱費は 2016 年 7～9 月四半期も減少が続くが、一部の州や鉱種で増加
- 豪：Energy Resources Australia 社、NT 準州 Ranger ウラン鉱山の 2016 年生産量が前年比 17% 増

[アジア]

- インドネシア：政令改定によりニッケル鉱石及びボーキサイト輸出を許可
- インドネシア：Vale Indonesia、ニッケル鉱石輸出はマイナスの影響を与えるとコメント
- インドネシア：PT Freeport 社が鉱業事業契約を IUPK に変更することに同意
- 中国：2017 年再生鉛における新規稼働生産能力は 48 万 t になる予想
- 中国：2016 年銅業界の十大ニュース

ペルー：JDL Gold 社、Koricancha 金処理プラント操業再開

2017 年 1 月 4 日、JDL Gold 社（本社バンクーバー）が、Koricancha 金処理プラント（Arequipa 州）の操業を再開したことを明らかにした。同社プレスリリースによると、2016 年 11 月下旬に粗鉱粉砕作業を開始、同年 12 月に精製作業も再開し、今後数四半期をかけて、同プラントの設計能力である月粗鉱処理量 10,000t まで徐々に増産するという。

同社は、2016 年 10 月、当時の Lowell Copper 社（本社バンクーバー）、Gold Mountain Mining 社（本社バンクーバー）、Anthem United 社（本社バンクーバー）が合併して出来た会社である。Koricancha 金処理プラントはもともと Anthem United 社が所有していた。

（2017 年 1 月 13 日 リマ 迫田昌敏）

ペルー：Niñobamba 銀プロジェクト、隣接鉱区を買収

2017 年 1 月 9 日、Niñobamba 銀プロジェクト（Ayacucho 州）の権益を折半所有する Rio Silver 社（本社トロント）と Magellan Gold 社（本社米国 Reno）は、隣接鉱区 553ha を買収したと発表した。

プレスリリースによると、新規取得した鉱区は、2009～2010 年、Newmont Mining 社（本社デンバー）の探査対象になり、ボーリング調査により、金 1.19g/t の鉱徴を得ている。同プロジェクトの鉱区面積は 3,653ha となった。Magellan Gold 社は、同プロジェクトにおいては、2017 年の初めにボーリング調査が開始できるよう、国の許可と地元住民の合意を得るのが当面の目標だと述べている。

（2017 年 1 月 13 日 リマ 迫田昌敏）

ペルー：Tahoe Resources 社、探査状況を報告

2017年1月9日、Tahoe Resources 社（本社カナダ）が2016年の探査状況を報告し、その中で、ペルー国内で操業する La Arena 鉱山（La Libertad 州）と Shahuindo 金鉱山（Cajamarca 州）について、2016年の探査結果と2017年の探査計画の概要を明らかにした。

同社プレスリリースによると、2016年の同社の探鉱費はカナダやグアテマラも含め、28百万US\$であった。2017年の探鉱費は、目標として35～45百万US\$を見込んでおり、ペルーに関してはそのうち50%が使われるとしている。2016年のペルーでの探鉱成果として、Shahuindo 鉱山において確認された既存ピット近くの砂岩中の酸化鉱の鉱化作用をあげ、将来的にピット規模の拡張が期待できると同社は述べている。

2017年は引き続き Shahuindo 鉱山のピット周辺のボーリング探鉱を続けるほか、ポーフィリー銅硫化鉱の鉱化作用も期待される La Arena 金鉱山においては、2017年第1四半期に終わる予察レベルの調査結果次第では、同年中にFSを開始する可能性を示唆した。なお、La Arena 金鉱山から2kmの位置にあり、地質学的背景の類似性を持った El Alizar ターゲットにおいて2016年に実施されていた25孔延べ5,889mのボーリング調査結果はポジティブではなく、2017年のボーリング探鉱は計画されていない。

（2017年1月13日 リマ 迫田昌敏）

ペルー：Los Chapitos 銅プロジェクト、東部ボーリング調査のEIA承認

2017年1月10日、Camino Minerals 社（本社バンクーバー）は、Los Chapitos 銅プロジェクト（Arequipa 州）において、ボーリング調査のEIAが承認されたことを明らかにした。

同プロジェクトの東側のエリアにはコミュニティが存在せず、Adriana 鉱化帯やKatty 鉱化帯と呼ばれる鉱化ゾーンが広がっており、こちら側を第一の探査ターゲットとして、リバーサーキュレーションボーリング調査のための環境影響評価書がエネルギー鉱山省に承認されたもの。今後、行政側からのフィールド活動開始許可が2017年1月末までに受けられるものと同社は見込んでいる。

Adriana 鉱化帯は75m×150mの広がりを持ち、Katty 鉱化帯はその南東約1kmに、50m×125mの広がりを持って並ぶ。ボーリング調査の初期においては、地表の酸化鉱の下部に広がる物理探査異常を確認することになるという。さらに、2017年内に、Adriana-Katty 鉱化トレンドの南東延長線上にあるVickyゾーンへのトレンチ調査も計画されている。なお、同プロジェクト西側の、古くからの鉱山地帯で、地表で38mにわたって銅品位2.1%以上を示すサンプルが得られているAtequipa コミュニティエリアに関しては、2016年11月、同社と同コミュニティ間で、アクセスのための5年間の社会協定が締結されている。

（2017年1月13日 リマ 迫田昌敏）

ペルー：Caylloma 鉱山、2016年第4四半期生産報告

2017年1月11日、Fortuna Silver 社（本社バンクーバー）が2016年第4四半期と2016年の決算報告を行い、そのなかで、ペルーのCaylloma 鉱山（Arequipa 州）について、以下のとおり報告した。

- ・2016年第4四半期の粗鉱処理量は135,121t（平均1,501tpd）、2016年の粗鉱処理量は514,828t（平均1,438tpd）。
- ・銀生産量は、2016年第4四半期に291,988oz（約9.1t、平均粗鉱品位82g/t、回収率約82%）、2016年に1,255,981oz（約39.1t、平均粗鉱品位90g/t、回収率約84%）。

・鉛生産量は、2016年第4四半期に7,290,060lb(約3,307t、平均粗鉛品位2.60%、回収率約94%)、2016年に32,673,479lb(約14,821t、平均粗鉛品位3.06%、回収率約94%)。

・亜鉛生産量は、2016年第4四半期に11,006,018lb(約4,992t、平均粗鉛品位4.06%、回収率約91%)、2016年に43,204,154lb(約19,597t、平均粗鉛品位4.25%、回収率約90%)。

同社プレスリリースでは、同鉱山の2017年の年間生産目標について、粗鉛処理量535千t、銀生産量1.0百万oz(約31.1t、平均粗鉛品位71g/t)、鉛生産量30百万lb(約13,608t、平均粗鉛品位2.73%)、亜鉛生産量41百万t(約18,598t、平均粗鉛品位3.86%)とされている。

また、2017年には、鉱山開発に6.9百万US\$、設備インフラに3.3百万US\$、周辺探鉱に3.9百万US\$、合計14.1百万US\$の投資が計画されており、周辺探鉱では、現在の主要採掘対象のAnimas脈の延長確認のため、延べ22,000mのボーリング調査が予定されている。

(2017年1月13日 リマ 迫田昌敏)

ペルー：Coricancha 鉱山、Great Panther Silver 社の買収完了は2017年第1四半期

2017年1月11日、Great Panther Silver社(本社カナダ)は、2016年の決算報告のなかで、Coricancha 鉱山(Lima州)の買収完了は2017年第1四半期で、買収完了後、まずインフラ評価と予備的経済評価(PEA)を行うことを明らかにした。また、この結果に応じて、操業再開に向けた開発作業を2018年半ばに開始するとともに、2017年第2四半期には更新した鉱物資源量を公表する計画であることも明らかにした。

Nyrstar社(本社ベルギー)との譲渡契約では、売却額は現金10万US\$プラス最高10百万US\$までのアーンアウト(earn-out)条項を含むとされている。同条項では、同鉱山の累積フリーキャッシュフローがポジティブになった後の5年間、Nyrstar社が同鉱山のフリーキャッシュフローの15%を受け取ることを取り決めている模様。同鉱山では年間3百万oz(約93t)の銀生産が見込まれるほか、金、鉛、亜鉛、銅等の鉱産物生産も期待できる。

(2017年1月13日 リマ 迫田昌敏)

ペルー：Prism Resources 社、Huampar 銀金鉱山再開を発表

2017年1月11日、Prism Resources社(本社バンクーバー)が、ペルーのHuampar 銀金鉱山(Lima州)を再開するため、エンジニアリング会社との契約を検討していることを明らかにした。同社は、同鉱山を500tpd規模で再開させる(現行許可は350tpd)ため、現在、鉱山モデルの再構築とデータベースの整備に取り組んでおり、今後、既知鉱化帯の広がりを確認するとともに鉱石埋蔵量を更新することになっている。

同社は、2016年7月、Trevali Mining社(本社バンクーバー)、Nueva Condor SA社、Carlos Loret De Mola De LaValle社から、同鉱山を買収した。同社によると、25年以上前に休山した同鉱山の過去の生産量は約2.5百万tで、平均銀品位185g/t、平均亜鉛品位5%、平均鉛品位3.8%、平均金品位1.6g/tだったという。また、NI43-101に準拠しない過去の予測鉱物資源量として、874,412t(平均銀品位209g/t、平均亜鉛品位3.63%、平均鉛品位3.31%、平均金品位1.3g/t)という数字が残されている。同鉱山を含む半径8kmのエリアには4つの休止鉱山が存在し、いずれも物理探査やボーリング調査はなされていない模様。

(2017年1月13日 リマ 迫田昌敏)

ペルー：Tamayo エネルギー鉱山大臣、政府公布の法令について国会へ説明

2017年1月12日、エネルギー鉱山省がホームページ上に掲載したところによると、エネルギー鉱山大臣は、国会において、政府が授権法に基づいて2016年から現在までに公布したエネルギー・鉱業セクターに係る8件の法令に関する説明を行った。

このうち、鉱業セクターに係わる法令は以下の通り。法令第1320号では、鉱業権者に対する最低生産量や罰金を規定する鉱業一般法第40条および第41条が改正された。法令第1293号及び第1336号は、小規模・零細鉱業合法化を国益に資する事業と位置付け、合法化プロセスを再編し、新たな統合的合法化プロセスを導入することを目的として公布された。また、法令第1334号では、鉱業プロジェクトを含め、エネルギー鉱山省、経済財務省、内閣が優先性を認める経済活動・プロジェクト地域における、上下水道、教育、医療、運輸・通信、農業関連の公共事業への融資を目的とした社会基金の設立が制定された。

(2017年1月13日 リマ 迫田昌敏)

ペルー：Dynacor 社、新規金鉱石処理プラントでの2016年第4四半期生産量を報告

2017年1月12日、Dynacor Gold Mines 社（本社モントリオール）が、2016年10月に立ち上がった300tpdの新規金鉱石CIP処理プラント Veta Dorada（Arequipa 州）での、2016年第4四半期生産実績が、金21,014oz（約653kg）であったと発表した。また、同社は、同プラントの処理能力を360tpdに引き上げ、2017年の年産金生産目標を88,000～92,000oz（約2.7～2.9t）に設定することを明らかにした。

(2017年1月13日 リマ 迫田昌敏)

ペルー：Toquepala 鉱山拡張プロジェクト完了は2018年第1四半期

2017年1月13日付け地元紙は、同社のOscar Gonzalez Rocha 会長兼CEOへの地元メディアのインタビューを引用するかたちで、Southern Copper 社（本社米国）のToquepala 鉱山（Tacna 州）拡張プロジェクトの完了が2018年第1四半期になると報じた。これまでの見通しでは、2018年第2四半期とされてきた。

(2017年1月13日 リマ 迫田昌敏)

ペルー：鉱業プロジェクトにおける先住民事前協議の実施状況

2017年1月13日現在のエネルギー鉱山省公表資料によると、同省は、2011年に成立した先住民事前協議法に基づき、現在まで、鉱業プロジェクト5件の探鉱活動に係る先住民事前協議を完了したほか、現在も4件の鉱業プロジェクトについて事前協議を実施している。

既に協議を終えた案件の一例として、Barrick Misquichilca 社のMisha プロジェクト（Apurimac 州）では、2015年4月に同社による探鉱実施許可がエネルギー鉱山省に申請された後、プロジェクトエリアに存在する Cotarusi 農民コミュニティが先住民事前協議の対象である先住民コミュニティであるかについてエネルギー鉱山省や文化省内で審議された。

同年11月23日、鉱業環境総局の調査により同コミュニティは事前協議の対象となるケチュア先住民コミュニティであることが最終確認され、11月24日付で同農民コミュニティに対する事前協議実施や、協議に先立つ準備会合の要請が通達された。11月26日に実施された準備会合では、先住民事前協議の計画書が承認された。

その後、本計画に基づき 12 月 27 日に情報共有ワークショップが実施され、コミュニティ全住民が招集されたほか、文化省の代表者等も参加し、探鉱活動（試錐座 10 カ所、トレンチ 16 カ所、アクセス道造成、ボーリング調査 10 本実施、調査期間 12 カ月等）についての説明が行われた。12 月 30 日、同農民コミュニティは、同社による社会・環境調査や責任の履行、政府による監査監督の実施、コミュニティの集団的権利や環境の尊重等を条件に同プロジェクト探鉱活動実施に合意する旨決定をエネルギー鉱山省に通達。これを受けて同省は、2016 年 3 月 4 日、同社に対し同プロジェクトの探鉱活動の実施を承認する省令を公布した。

現在、先住民協議を実施しているのは、Anglo American Peru 社の Corcapunta プロジェクト、Anabi 社の Anama プロジェクト、Ares 社 Puquiopata プロジェクト、Milpo 社 Guadalupe プロジェクトとなっている。

(2017 年 1 月 13 日 リマ 迫田昌敏)

ボリビア : Vinto 錫製錬所、2016 年の錫生産量は 13 千 t

2017 年 1 月 10 日付け地元紙によると、Vinto 錫製錬所(Oruro 県)を操業する Empresa Metalúrgica Vinto (EMV) 社の Ramiro Villavicencio マネージャーが、2016 年の錫生産量が 13,111t であったことを明らかにした。

同氏によると、同製錬所で生産された錫は、約 234 百万 US\$の価格で、13,000t が輸出されたという。同製錬所の年間生産能力は 18,000t で、同社は、2016 年に、純度 99.95%の輸出用錫 14,500t の生産目標を立てていた。César Navarro 鉱業冶金大臣は、目標未達について、主として、水不足による Huanuni 鉱山からの錫精鉱の供給不足をあげた。

(2017 年 1 月 13 日 リマ 迫田昌敏)

エクアドル : 大統領選有力候補者の鉱業政策

2017 年 1 月 11 日付け地元紙などは、2 月 19 日に予定されている大統領選の候補者 8 名の政策を報じているが、うち有力候補者 3 名の鉱業政策は次のとおり。

与党 Alianza Pais の Lenín Moreno 候補（元副大統領）：現政権の政策を押し進め、外貨獲得源として、環境保護を重要視する責任ある鉱業を育て上げる。

野党第一党 CREO 党の Guillermo Lasso 候補：鉱業事業者が鉱業法を遵守し、環境保全の規定をクリアしているならばそれを尊重する。2015 年度の鉱業は、GNP の 5%、33,000 人の直接雇用を生み、1.7 億\$の資本を形成した。新政権では、環境規定と、水源及び生物多様性の保護の観点から、標高 2,800m 以上の場所での採掘は承認せず、水源を確保するため、関係する県や自治体の財政支援を行う。

野党 Social Cristiano 党の Cynthia Viteri 候補：鉱業採掘の認可は、環境保全のため厳格にされなければならない。もし違反していると見做された場合は直ちに鉱業活動を中止させ、観光やその他事業への転換を推進するなど、自然環境保全と生物多様性を保護する政策を重要視する。

なお、2016 年末に実施された 2 社の世論調査では、いずれも Moreno 候補が支持率トップで、Lasso 候補と Viteri 候補が第 2 位を争う展開となっている。

(2017 年 1 月 13 日 リマ 迫田昌敏)

コロンビア : Angel Gold 社、El Porvenir 金銀プロジェクトのための新たな水利権取得

2017 年 1 月 9 日、Angel Gold 社(本社バンクーバー)が、El Porvenir 金銀プロジェクト(Antioquia

県)を進めるためのキーとなる3つの水利権を、環境行政当局から取得したと発表した。

この水利権は2017年1月から5年間有効で、2017年に予定されている同社のボーリング調査に不可欠なものだった。2016年、同プロジェクトにおいては、トレンチ調査、詳細マッピングとサンプリングが実施され、岩石地化学探査により、Nus Fault内の北西トレンドの約1.3km区間が、金銀アノマリーを示す優先掘削目標とされている。

SNL社データによると、2016年6月のトレンチ調査結果として、幅5.7m間、金品位8.7g/tが報告されている。今後同社では、実施予定とされる延べ2,000mのボーリング調査のための資金調達を計画している。

(2017年1月13日 リマ 迫田昌敏)

コロンビア：Gran Colombia Gold社、2016年第4四半期生産量発表

2017年1月10日、コロンビアでの操業に注力するGran Colombia Gold社(本社トロント)が、2016年第4四半期生産量を発表した。

同社プレスリリースによると、同社の2016年第4四半期の金生産量は、前年同期比36%増の40,858oz(約1,271kg)となった。2016年通年の金生産量は、前年比28%増の149,687oz(約4,655kg)となり、同社の2016年通年の金生産目標135~145千oz(約4.2~4.5t)を上回った。

Segovia金鉱山(Antioquia県)の2016年第4四半期の金生産量は34,802oz(約1,082kg)、2016年通年の金生産量は、前年比36%増の126,237oz(約3,926kg)、またMarmato金鉱山(Caldas県)の2016年第4四半期の金生産量は6,056oz(約188kg)、2016年通年の金生産量は、前年比同レベルの23,450oz(約729kg)だった。

(2017年1月13日 リマ 迫田昌敏)

グアテマラ：加Goldcorp社、Cerro Blancoプロジェクトを加Bluestone Resources社に売却

2017年1月12日付け業界紙によると、加Goldcorp社(本社：バンクーバー)は、同社がグアテマラに保有するCerro Blanco金・銀プロジェクト及びMita地熱プロジェクトを加Bluestone Resources社(本社：バンクーバー)に売却することを発表した。これにより、Goldcorp社は、18百万US\$の現金、1%のNSR及びBluestone Resources社株9.9%を取得する。Bluestone社は、まず、Goldcorp社子会社がグアテマラに保有する資産、機材の供与を受けるため、Cerro Blancoプロジェクト権益譲渡は2017年第1四半期となる見込みである。

また、2016年9月、Goldcorp社は、Scotia銀行とGoldcorp社がメキシコGuerrero州に保有しているLos Filos金・銀鉱山の売却手続を進めていると報じられており、一部資産評価企業は同鉱山の資産額を617百万US\$と評価している。

(2017年1月15日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ：2016年11月の鉱業指数、改善傾向

2017年1月11日付け業界紙等によると、メキシコ国家統計地理情報局(INEGI)は、石油・天然ガスを除く2016年11月のメキシコの鉱業生産(各鉱種等を総合し指数化した数値)が前年同月比2.7%増となったことを明らかにした。同値は6ヶ月連続で対前年同月を下回っていた。また、10月の同値(速報)は3.9%減だったが確定値では2.9%減に修正されている。これにより、2016年1~11月の同値は対前年同期比1.3%減となった。

なお、鉱業生産量ベースで比較すると、10月の同生産量は対前年同月比6.1%減、1～10月期の同生産量は対前年同期比6.6%減となっており、特に落ち込みが激しい鉱種は亜鉛と金である。

(2017年1月15日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ：加Defiance Silver社、San Acacio銀鉱床（Zacatecas州）の鉱業権を取得

2017年1月11日付け業界紙によると、加Defiance Silver社（本社：バンクーバー）は、Zacatecas州のSan Acacio銀鉱床の鉱業権を取得したことを発表した。同鉱業権の下での探査は総掘削長60,000mを予定しており、期間は4.5年である。同社は、既に探査評価プロセスを終了しており200g/tを超える鉱化帯を捕捉している。

(2017年1月15日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ：2017年加Great Panther Silver社事業計画

2017年1月11日付け業界紙によると、加Great Panther Silver社（本社：バンクーバー）は、同社がメキシコに保有する2つの鉱山の2017年の生産量は4.0～4.1百万oz（銀換算）となると発表した。なお、2016年の同生産量は3.9百万oz（2015年比7%減）であった。

また、同社CEOは、Topia鉱山（Durango州）の拡張とNyrstar社がペルーに保有するCoricancha金・銀鉱山買収計画が今後の同社繁栄の鍵を握る。2017年は、掘削費、Topia鉱山の鉱滓ダムをメインとした設備投資額が増加するため、全維持コスト（AISC）は14US\$/ozから16US\$/ozに上昇する見込みであり、Coricancha鉱山の買収交渉は2017年第1四半期までに終了させたいとコメントした。

(2017年1月15日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ：米Gold Resource社、Aguilaプロジェクト（Oaxaca州）探鉱結果を公表

2017年1月12日付け業界紙によると、米Gold Resource社は、同社がOaxaca州で進めているAguila多金属プロジェクトの探査結果を公表した。最も良い結果は、着鉱幅4.05m、金品位1.25g/t、銀117g/t、銅1.00%、鉛2.13%、亜鉛12.90%を捕捉したというものであった。同社は、今後、Switchback脈の掘削作業を進める旨付け加えた。

(2017年1月15日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ：加Endeavour Silver社、メキシコに保有する3鉱山の2016年生産量を公表

2017年1月10日付け業界紙によると、加Endeavour Silver社（本社：バンクーバー）は、同社がメキシコに保有する3の貴金属鉱山の2016年の各鉱山を生産量を以下のとおり発表した（合計のカッコ内は前年比）。

鉱山名	位置（州）	粗鉱処理量（t）	銀生産量（t）	金生産量（kg）
Guanaceví	Durango	367,441	73.5	166
Bolañitos	Guanajuato	507,704	32.7	955
El Cubo	Guanajuato	583,772	62.8	633
	合計	1,458,917	169.0t（24%減）	1,754kg（4%減）

(2017年1月15日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ：加 Goldcorp 社、Los Filos 鉱山の売却を進める

2017年1月12日付け業界紙等によると、加 Goldcorp 社（本社：バンクーバー）は、同社がメキシコ Guerrero 州に保有する Los Filos 金・銀鉱山及びグアテマラに保有する Cerro Blanco 開発プロジェクトの売却計画を進めている。

同社は、加 Leagold Mining 社に、279 百万 US\$の現金、Leagold 社株 71 百万 US\$相当及び各税約 88.0 百万 US\$を加えた総額約 438 百万 US\$で売却することで合意した。これにより、Goldcorp 社は、Leagold 社の株式の約 30%を保有する。なお、本売却締結は 2017 年第 1 四半期に終了する見込みである（Cerro Blanco 金・銀開発プロジェクトについては、ニュースフラッシュ（2017年1月15日）「グアテマラ：加 Goldcorp 社、Cerro Blanco プロジェクトを加 Bluestone Resources 社に売却」参照のこと）。

（2017年1月18日 メキシコ 森元英樹）

メキシコ：加 Timmins Gold 社、2016 年第 4 四半期及び 2016 年の生産結果を公表

2017年1月11日付け業界紙によると、加 Timmins Gold 社（本社：バンクーバー）は、同社が保有する San Francisco 鉱山の 2016 年第 4 四半期及び 2016 年の生産結果を発表した。

同鉱山の 2016 年第 4 四半期金生産量は 786 kg 及び 2016 年の金生産量は 3.1t であった。また、同社の 2017 年生産計画によると、全維持コスト（AISC）は 900~950US\$/oz、生産量は 2.2~2.3t を見込む。同社レポートによると、同鉱山寿命は 2023 年まで続き、この間の金生産量は 14.0~15.6t を見込んでいる。

また、Guerrero 州で進めている Ana Paula 金プロジェクトの建設工事は計画どおり進んでおり、総延長 20 km のボーリング調査は間もなく終了する。結果、同プロジェクトの FS 調査完了は 2017 年中旬となり、建設工事ライセンス取得は 2017 年末が見込まれている。

（2017年1月18日 メキシコ 森元英樹）

メキシコ：El Boleo 多金属プロジェクトの 2016 年生産量、当初計画を大きく下回る

2017年1月13日付け業界紙によると、Baja California Sur 州の El Boleo 多金属プロジェクト（加 Baja Mining 70%、韓国企業団 30%の権益保有）の 2016 年カソード銅生産量は 14,284t となり、2015 年の生産量を上回るも当初計画 22,574t を大きく下回る結果となった。

同鉱山は、これまで資金繰り、操業プロセス等において多くの問題を抱えており、2016 年の生産量が計画を下回った要因としては、ハリケーン Newton による予期しない処理プラント停止、品位が予想を下回ったこと等が上げられる。また、同鉱山では、コバルトと硫酸亜鉛の商業生産も開始しており、2016 年の生産量はコバルトが 419t、硫酸亜鉛が 1,444t となった。2017 年の生産計画では、カソード銅生産量を 2016 年比 2 倍増となる 30,000t と予測している。また、2017 年の投資額は 45 百万 US\$と見込んでおり、採掘機械の新規購入、尾鉱（ズリ）管理施設拡張等をメインとしている。

（2017年1月18日 メキシコ 森元英樹）

メキシコ：豪 Zenith Minerals 社、新たにリチウム探鉱プロジェクト権益を取得

2017年1月17日付け業界紙によると、豪 Zenith Minerals 社は、メキシコ中央部に新たな塩化リチウム探鉱プロジェクト権益（26,440 エーカー）を取得したことを発表した。

権益を取得した近隣地の湿地及び堆積物を対象に Mineral Resource Council 社が実施したサンプル調査では 2.1%リチウム分の塩化リチウムが報告されている。同社は、1 月中旬に Zacatecas 州において地表調査を実施する方針であり、その後、地層、構造調査のため 2~4 本のボーリング

調査を実施する予定である。

(2017年1月18日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ：Orex Minerals 社、Canasil Resources 社と JV 契約を締結

2017年1月16日付け業界紙によると、Orex Minerals 社は、オプション権を行使し Canasil Resources 社と JV 契約を締結したことを明らかにした。これにより、Orex Minerals 社は、Durango 州 Sandra Escobar 金プロジェクト (6,976ha) の55%の権益を保有することとなる。契約では、Orex Minerals 社は、契約署名時に500,000C\$を Canasil Resources 社に支払い、同プロジェクトの探鉱・開発費として2百万US\$以上を出資することとなる。なお、探鉱費用は、各社の権益比率に応じ支払う。

また、契約では、Orex Minerals 社は、今後2年以内に500,000C\$を Canasil Resources 社に支払い、2百万US\$の追加投資を行った場合、同プロジェクトの10%権益をさらに取得することができる。

(2017年1月18日 メキシコ 森元英樹)

メキシコ：メキシコ国内に稼働鉱山を保有する加 First Majestic Silver 社、米 Argonaut Gold 社、加 Avino Silver and Gold Mines 社の 2016 年生産量

2017年1月17日付け業界紙等は、メキシコ国内で操業を行っている加 First Majestic Silver 社、米 Argonaut Gold 社、加 Avino Silver and Gold Mines 社の2016年及び同年第4四半期の生産量等の概要を以下のとおり報じている。

・加 First Majestic Silver 社 (本社：バンクーバー)

メキシコ国内に6つのプロジェクトを保有する加 First Majestic Silver 社 (本社：バンクーバー) の2016年第4四半期の銀生産量は、対前年同期3.06百万oz (約95t) から2.82百万oz (約89t) に下落したものの、2016年の銀生産量は対前年比6%増の11.8百万oz (約367t) となった。また、2016年の金生産量は62,436oz (約1.9t) であった。

なお、同社は、2017年計画において銀生産量を11.1~12.4百万oz (約345~385t)、直接費 (Direct Cost) 6.06~6.48US\$/oz、全維持コスト (AISC) 11.96~12.88US\$/oz と推計している。

・米 Argonaut Gold 社

メキシコに El Castillo 鉱山、La Colorada 鉱山を保有する米 Argonaut Gold 社の2016年第4四半期の金生産量は、対前年同期30,399oz (約0.9t) から13%上昇し34,384oz (約1.1t) となったものの、2016年生産量は2015年139,059oz (約4.3t) から122,097oz (約3.8t) に下落した。更に、2016年の直接費も下方修正され825~875US\$/oz となった。同社は、2017年の生産計画において、生産量を115,000~130,000oz (約3.6~4.0t) と設定し、直接費を725~775US\$/oz と推計している。なお、同社は2017年の鉱山投資額を75.8百万US\$と見込んでおり、うち35.5百万US\$を San Agustín 金・銀・亜鉛プロジェクト (Durango 州) に投入する計画である。

・加 Avino Silver and Gold Mines 社 (本社：バンクーバー)

Avino 鉱山、San Gonzalo 鉱山を保有する加 Avino Silver and Gold Mines 社の2016年第4四半期の銀生産量は対前年同期比2%増の419,355oz (約13t)、同金生産量は対前年同期比63%増の2,581oz (約0.1t) となった。結果、2016年の生産量は金、銀とも対前年比1%上昇し銀1.61百万oz (約50t)、金7,119oz (約0.2t) となった。

一方、銅生産量は、2016年第4四半期が対前年同期比41%減の755,645lb (約343t) となり、その結果、2016年の生産量は対前年比11%減の4.21百万lb (約1,910t) となった。

(2017年1月18日 メキシコ 佐藤すみれ)

ジャマイカ：加 Carube Copper 社、豪 OZ Minerals 社が保有する Bellas Gate プロジェクト等の 権益を取得

2017年1月11日付け業界紙によると、加 Carube Copper 社（本社：オタワ）は、2016年9月にジャマイカのJV事業等からの撤退を表明した豪 OZ Minerals 社と行っている資産売却交渉が合意に達したと発表した。これにより、Carube Copper 社は、OZ Minerals 社が保有する Bellas Gate 銅・金プロジェクトの権益 70%、その他 5 つのプロジェクト権益 100%を取得することとなり、Carube Copper 社が保有するプロジェクト権益は 11 件（535 km²）となる見込みである。

契約では、本年中に Carube Copper 社は OZ Minerals 社に対し 8.5 百万 C\$を支払い、その後 2 年間 4 百万 C\$を支払うこととなる。同時に、Bellas Gate プロジェクトについては、OZ Minerals 社は 20 百万 C\$を上限とした 5%の NSR (Net Smelter Royalty) を保有するが、同ロイヤルティは Carube Copper 社が 1.3 百万 C\$で買い取ることができる。

また、その他 5 件のプロジェクトのうち、12 ヶ月以内にどれか 1 つでも商業生産に移行したプロジェクトがある場合には、OZ Minerals 社は 1.5 百万 C\$を取得することとなり、同時に 2%の NSR が付与される。なお、Carube Copper 社は、同 NSR の半分を 0.5 百万 C\$で買い取ることができる。

(2017年1月15日 メキシコ 森元英樹)

米：Taseko 社、Florence 銅プロジェクトの経済性評価を更新

2017年1月16日、米 Taseko Mines Ltd. 社は、同社が AZ 州で開発中の Florence 銅プロジェクトについて、回収技術の評価を改めたことにより経済性が向上したことを発表した。

当該プロジェクトは精錬方法として SxEw 法を採用しているが、2016年に完了した実証試験により 2013年に同社が発表した技術レポートの通り 70%の回収率が確保できる見通しとなったことで、従前の評価よりも運用コストの低下及び生産量の増加が見込まれることを示した。これにより、新たな経済性評価結果として、可採鉱量（銅量）1.7blb（約 770,000t）の鉱体に対して、マインライフ 21 年、税引き前 NPV は 920US\$（割引率 7.5%）、税引き前 IRR は 44%と見積もられた。

同社は 2017年に生産テスト施設の建設を開始し、開発に向けた取り組みを続ける見通し。

(2017年1月17日 バンクーバー 杉崎真幸)

加：Denison Mines 社、Wheeler River ウランプロジェクトの権益増加へ

2017年1月10日、加 Denison Mines Corp. 社は、同社がオペレータを務める Wheeler River ウランプロジェクト JV に関して、2018年末までに JV に占める同社の権益比率が現在の 60%から 66%程度に増加する見通しであることを発表した。

Wheeler River ウランプロジェクトは Denison Mines 社（60%、オペレータ）、Cameco Corp. 社（30%）及び JCU (Canada) Exploration 社（10%）から成る JV により探鉱が行われているが、3社は 2017年から 2018年の探鉱費用について Denison Mines 社が Cameco 社のプロラタ支出の 2 分の 1 を代わりに支払うことに合意した。これにより、Denison Mines 社は 2017年から 2018年にかけて総探鉱費用の 75%を拠出することとなる。2017年には 12.5mC\$、2018年には 15.6mC\$の探鉱費用が見積もられていることから、2018年末には Denison Mines 社の権益割合は現在の 60%から 66%程度に増加する見込みとなる。

Wheeler River ウランプロジェクトは、SK 州アサバスカ盆地内に位置する不整合接触型ウラン鉱床をターゲットとしたプロジェクトであり、現在概測資源量として 19.5kt (U₃O₈換算) が確認されている。

(2017 年 1 月 12 日 バンクーバー 杉崎真幸)

加 : Premier Gold 社、Hasaga 金プロジェクトの鉱量計算結果を発表

2017 年 1 月 11 日、加の金鉱山会社である Premier Gold ltd. 社は、同社が加 ON 州で実施する Hasaga 金プロジェクトに関する鉱量計算結果を発表した。

当該プロジェクトは加 ON 州南東部のグリーンストーン帯に位置する金プロジェクトであり、Premier Gold 社が 100%の権益を保有する。

今回明らかとなった既知鉱化部の精測・概測資源量は 42mt、金品位 0.83g/t (金量 1,124koz、約 31t)、概測資源量は 25mt、金品位 0.78g/t (金量 631koz、約 18t)。ただし、本鉱量計算結果は露天掘りで採掘可能な既知鉱体のみに対するものであり、深部については未評価である。

(2017 年 1 月 17 日 バンクーバー 杉崎真幸)

ロシア : Norilsk Nickel 社、Rostec 社から含銅原料を購入

2016 年 12 月 28 日付の地元報道等によると、Norilsk Nickel 社は、2016 年 12 月 27 日、非鉄金属・貴金属を含む推定 150 万 t の含銅原料を国営企業 Rostec 社から購入する契約を結んだと発表した。取引額は約 675 億ルーブル。Rostec 社に対する支払は、Norilsk Nickel 社による当該原料加工と完成品販売に応じて、4 年間で数回、ほぼ均等分割で行われる。

Norilsk Nickel 社の北極圏支社で 1980 年代から保管されていた含銅原料は、2016 年にロシア政府令によって Rostec 社に移譲されていた。Norilsk Nickel 社は、生産施設近代化に基づき自社生産設備で完成品生産を開始することから、当該原料を購入することとなった。

(2017 年 1 月 17 日 モスクワ 黒須利彦)

ロシア : 世界最大のチタン鉱床開発へ

2016 年 12 月 29 日付の地元報道等によると、国営企業 Rosatom 社は、Pizhemscoe 漂砂チタン鉱床 (コミ共和国ウスチ・ツィリマ地区) で地質調査を行っており、2018 年に調査を完了し、2 ヶ所の生産エリアを建設する予定である。また、チタン鉱石及び珪砂の選鉱に関する技術試験は既に完了している。この世界最大鉱床を開発する大型プロジェクトは、産業貿易省による非鉄製錬部門の輸入代替計画の一つとして位置づけられている。

本プロジェクトでは、良質なルチル精鉱のロシア初の生産が開始される予定であり、酸化チタン顔料の大規模な焙焼生産、大容量チタン酸リチウム電池製造用多孔性ルチルの特殊精鉱生産も含まれている。航空・宇宙・造船・石油ガス・塗料・化学産業の消費者及び生産者が本鉱床開発のターゲットである。

地質専門家によると、Pizhemscoe 鉱床のチタン資源量は 25 億 t 以上 (随伴鉱物を除く) である。これはロシアのチタン全埋蔵量の約 50%に相当し、鉱床のメインライフは 150 年以上とされる。この開発で建設される 2 ヶ所の生産エリアには、採鉱選鉱コンビナート、採鉱製錬施設が建設される。Rosatom 社傘下の無機材料研究所 (VNIINM) は、Pizhemscoe 鉱床の原料から良質な製品を生産する技術を開発しており、選鉱プラント・湿式製錬プラントの設計・建設にも参画する予定である。

(2017 年 1 月 17 日 モスクワ 黒須利彦)

ロシア：VSMPO-AVISMA 社と Boeing 社、合併拡大へ

2016 年 12 月 21 日付の地元報道等によると、VSMPO-AVISMA 社と Boeing 社は、Ural Boeing Manufacturing (2009 年設立) の生産能力拡大を発表した。新たな生産施設は、経済特区「チタンバレー」(スヴェルドロフスク州)において、50:50 の合併比率で建設され、開業は 2018 年第 1 四半期の予定である。この生産施設において、787 ファミリー、737MAX、777X (2017 年製造開始予定) を含む Boeing 社における民間航空機の全プログラムに基づいてチタン鍛造品の加工が行われる予定であり、これによって部品製造コストが低減される。

VSMPO-AVISMA 社は、Boeing 社の提携企業であり、初契約を結んだ 1997 年以降、一連の長期売買契約に基づき原料及びチタン製品を同社に供給している。現在、Boeing 社の事業部門 Boeing Commercial Airplanes へのチタン供給の 35%は VSMPO-AVISMA 社によるものである。

(2017 年 1 月 17 日 モスクワ 黒須利彦)

ロシア：Norilsk Nickel 社、ニッケル精錬システムを再編中

2016 年 12 月 19 日付の地元報道等によると、Kola MMC 社(Norilsk Nickel 社傘下)の Monchegorsk 生産施設は、ニッケル年産能力は 16 万 5,000t に拡大し、世界最大のニッケル精錬施設となった。

Kola MMC 社の生産拡大は、Norilsk Nickel 社の生産施設再配置によるものである。現在、Norilsk Nickel 北極圏支社のマツは、全て Kola MMC 社で処理されている。この生産施設再配置は、2013 年に決定された Norilsk Nickel 社発展戦略に基づき行われているものである。

(2017 年 1 月 17 日 モスクワ 黒須利彦)

ロシア：Amur Minerals 社、Kun-Manie 鉱床の埋蔵量拡大を予定

2016 年 12 月 12 日付の地元報道等によると、Amur Minerals Corporation (登記地：英領ヴァージン諸島)は、アムール川流域の Kun-Manie 鉱床の埋蔵量をニッケル 86 万 t (2.8 倍)、銅 26 万 t (3 倍) に拡大することを見込む。これは、Kun-Manie 社 (Amur Minerals 社傘下) の地質調査実施により 2016 年 12 月までに得られたデータに基づき更に精査される予定である。地質調査の完了と埋蔵量の認定は 2018 年を予定している。地質調査終了時点で、まず道路の設計に着手する。投資家候補の一つに中国 Hannun 社が挙げられている。

潜在的鉱床における 18 エリアの評価が行われ、確認された 4 つの大規模鉱体のうち 3 つで探鉱が行われた。現時点のライセンスエリアにおける算定・承認済みの埋蔵量はニッケルが 30 万 6,000t、銅が約 8 万 6,000t、プラチナ及び白金族金属が約 15t、金が 3t である。JORC 規定による鉱床資源量は鉱石 6,700 万 t で、平均品位はニッケル 0.59% (36 万 6,000t)、銅 0.18% (9 万 9,000t) である。鉱石年産量は 600 万 t に達する可能性がある。

Kun-Manie 鉱床エリアは、アムール州ゼーヤ地区とハバロフスク地方トゥグロ・チュミカン地区の境界に位置する。2015 年 5 月、Kun-Manie 社は、連邦的意義を有する地下資源鉱区のニッケル・銅・コバルト・硫黄・プラチナ・パラジウム・金・銀の探鉱・採掘目的の利用権を取得した。鉱区 (36 km²) のライセンス有効期間は 2034 年までである。

(2017 年 1 月 17 日 モスクワ 黒須利彦)

ロシア：Norilsk Nickel 社、VDM Metals 社と長期契約を締結

2016年12月12日付の地元報道等によると、Norilsk Nickel 社と独 VDM Metals 社は、5年間の大型ニッケル供給契約を締結したと発表した。本契約は、2015年2月に両社が調印したニッケル供給協定を延長するもので、契約に基づき Norilsk Nickel 社のニッケルは VDM Metals 社の工場に納入され、化学・石油ガス・自動車その他産業向けのニッケル含有量の高い合金の製造に利用される。ニッケル供給価格は、市況により決められる。

VDM Metals 社は、非鉄金属合金及び特殊鋼の開発・製造を行い、130種を超える各種最新材料を生産している。ドイツと米国に7つの生産サイト、ドイツ、中国、豪州に3つのサービスセンターを持ち、16の営業所と29の代理店から成る販売網を有する。

(2017年1月17日 モスクワ 黒須利彦)

カザフスタン：KAZ Minerals 社、カザフスタン開発銀行から3億US\$の融資獲得

2016年12月13日付の地元報道等によると、KAZ Minerals 社は、3億US\$の新規融資枠に関し、カザフスタン開発銀行と合意した。当該融資は、2016年12月6日に硫化鉍処理の主要選鉍プラントの試運転が開始された Aktogay プロジェクトを完遂させるためのものである。融資期間は8.5年、利率はドル LIBOR+4.5%である。

また、KAZ Minerals 社は、既存の輸出前融資における ING Bank N.V. による融資実行保証の5,000万US\$増額で合意している。その結果、2016年12月31日現在の輸出前融資による負債額は、融資枠の追加実行額を含めると約2億8,300万US\$となる。そして、同社は、融資枠リファイナンスに関するシンジケート団との交渉を2016年度の決算後に再開する予定である。

(2017年1月17日 モスクワ 黒須利彦)

キルギス：中国 Full Gold Mining 社、Ishtamberdy 鉍床でドーレを初生産

2016年12月26日付の地元報道等によると、中国 Full Gold Mining 社は、Ishtamberdy 鉍床（キルギス・ジャララバード州）でドーレの生産を開始した。同鉍床の選鉍プラントは2011年に操業を開始したが、金回収で期待した成果が得られなかったため、2014年に鉍石処理の新技術導入を開始した。2016年には選鉍プラントが改修され、ろ過部門、リーチング部門、電解部門及び脱着部門が稼働を開始し、改修後の試験では金回収率は85%に達している。生産したドーレはカラバルタ市の精錬プラントに送り、さらに精製する。また、Ishtamberdy 鉍床の金の推定埋蔵量及び予測資源量は79.5tである。

Full Gold Mining 社は、2007年からキルギスで活動しており、キルギスと中国のプロジェクト「投資の見返りに資源」の実施主体である。これは、Ishtamberdy 鉍床開発権と引き換えに中国側がいくつかの自動車道路区間（オシ〜サリ・タシ〜イルケシタム）改修に資金供給するというものである。

(2017年1月17日 モスクワ 黒須利彦)

ウズベキスタン：AGMK、銅採鉍場拡張プロジェクトを完了

2016年12月16日付の地元報道等によると、Almalyk Mining-Metallurgical Complex (AGMK、タシケント州アルマリク) は、2015年末に開始した Kalmakyr 銅・モリブデン鉍床のコンビナートの主要原料基盤拡大のプロジェクトを完了した。本プロジェクトの目的は、低品位鉍石からの金属抽出と銅選鉍プラント向けの追加原料確保である。本プロジェクトにより、2017年にはさらに400万tの鉍石処理が可能となり、短期的に銅を3%近く増産できる。

Tyazhmash 社（ロシア・シズラニ市）が主要生産設備の納入を行った。また、プロジェクト資金 7,520 万 US\$は、ウズベキスタン復興開発基金の融資（2,800 万 US\$）、ウズベキスタンの銀行の融資及び AGMK の自己資金により賄われた。

（2017 年 1 月 17 日 モスクワ 黒須利彦）

豪：鉱山や建設関連の労組が、海事労組と合併予定、連邦政府は阻止する意向

2017 年 1 月 7 日付けの地元紙によれば、鉱山、建設等に係る労働組合である「建設・林業・鉱山及びエネルギー労働組合（CFMEU）」は「海事労働組合（MUA）」と合併する予定である。

両組合は豪州において最も攻撃的な組合であり、組合員数は CFMEU が 10 万人以上、MUA が 1 万 4 千人程度である。両組合は 2016 年 12 月 14 日に合併に向けて MOU を締結したが、MUA の規模が小さいことから、一部の組合員からは、CFMEU と合併すれば少数意見が封じられて組合としてのアイデンティティが失われるとして、合併に反対する声があがっている。

他方、経営者側は巨大な労組が誕生することに対して懸念を示している。Turnbull 首相率いる連邦政府は CFMEU と MUA の合併を阻止する意向であり、このため、労組の合併の承認の審査に際し、公正労働委員会に対して、過去の労組の違法行為の履歴を考慮させる「公益性検査」を行わせる法令を制定する考えである。

（2017 年 1 月 16 日 シドニー 山下宜範）

豪：NSW 州、鉱山の開発計画の認可の制度を改正し、審査の迅速化を図る

2017 年 1 月 9 日付けの地元紙によれば、NSW 州政府は鉱山開発プロジェクトの認可に係る制度を改正して、審査の迅速化を図る予定である。

現在、同州の開発計画の認可は、計画評価委員会（PAC）が行っているが、近年、PAC によって鉱山開発プロジェクトの申請が却下される事例が出ていた。しかし今回の制度改正により、PAC の役割は同州の計画省に対する助言に留まることになる。

従前の制度の下では、PAC は計画省が決定した事項に対して審査を行ってきたが、今回の制度改正が行われれば、PAC は同省と共に審査を行う立場になる。NSW 州の Rob Stokes 計画大臣は、今回の制度改正により、審査の厳格さを損なうことなく審査の短縮を図ることが出来ると述べている。同州政府は今回の制度改正により審査期間が 70～160 日の間にまで短縮されるとしている。

他方、環境保護団体は、今回の制度改正は、PAC の審査の過程を廃して審査期間を短縮するものであることから、産業寄りの内容になっており、長期に亘る集水地域や農地の保護への保証が出来なくなるとして反対の立場を示している。

（2017 年 1 月 16 日 シドニー 山下宜範）

豪：コモディティ価格の回復でも新規投資は増加しない見込み（政府報告）

2017 年 1 月 9 日、連邦政府の産業・イノベーション・科学省が、資源エネルギーに係る主要プロジェクトをとりまとめた 2016 年版の報告書を発表した。

同報告書によれば、コミット段階（最終投資決定が行われて建設予定又は建設中）のプロジェクトの総額は 2013 年 4 月の段階ではピークとなる 2,680 億 A\$であったが、2016 年 10 月段階では 1,950 億 A\$にまで落ち込んだ。

現在、進行中の大規模プロジェクトのうち、事業費が約 600 億 A\$の Gorgon LNG は 2017 年に建設が完了し、また、事業費が約 100 億 A\$の Roy Hill 鉄鉱石鉱山は 2017 年初めにフル生産能力に達す

る予定である。この結果、コミット段階のプロジェクトは2017年には更に200～400億A\$にまで落ち込む見込みである。

2016年の後半になって石炭や鉄鉱石などのコモディティ価格が回復している。しかし同報告書は、投資の決定は市場の状況を長期的に見て実施されるとし、短期間の価格の回復は投資を刺激することにはならず、探鉱やプロジェクトには大きな影響を与えないと予測している。最近の価格の回復によって、幾つかの鉱山において再稼働の動きがある。例えばGlencoreのCollinsville探鉱プロジェクト、Mt Gibson社のKoolan Island鉄鉱石鉱山などである。しかしこれらは小規模なプロジェクトである。
(2017年1月16日 シドニー 山下宜範)

豪：連邦政府、2016/17年度資源・エネルギー分野の輸出総額、過去最高を予想

2017年1月9日、豪連邦政府は2016/17年度(2016年7月～2017年6月)の資源・エネルギー分野の輸出総額が前年度比30%増となり、過去最高の2,039億A\$となる予想を産業技術革新科学省(Department of Industry, Innovation and Science)のMark Cully首席エコノミストがResources and Energy Quarterly December 2016中で明らかにした。過去に豪州の年間輸出総額が1,900億A\$を越えた年は2012年と2014年のみであり、2,000億A\$を越えたことはまだない。なお、2015/16年度の資源・エネルギー輸出総額は1,571億A\$だった。

豪州の輸出品の主力である鉄鉱石と石炭の価格が上昇していることが背景にある。鉄鉱石は中国の需要増加により、価格が80US\$/tを越えた。連邦政府は2016/17年度の鉄鉱石の平均価格を58US\$/tと予想している。原料炭の価格は2016年2月に75.30US\$/tだったが、11月に308.80US\$/tまで上昇した。同政府は2016/17年度の原料炭の平均価格を186US\$/tと予想している。

今後、中国の需要は減少する可能性があるものの、豪州の資源・エネルギー分野の輸出はLNGの輸出額が増加していくため、堅調に推移すると見られている。2017/18年度の輸出額も前年度より減少が見込まれるものの、2,000億A\$を越えると予想されている。

(2017年1月16日 シドニー 矢島太郎)

豪：連邦政府、探鉱費は2016年7～9月四半期も減少が続くが、一部の州や鉱種で増加

2017年1月9日、豪連邦政府は2016年7～9月四半期に支出された探鉱費が減少を続けているものの、州や鉱種によって探鉱費が増加していることを四半期ごとに発行しているResources and Energy Quarterly December 2016中で示した。

本レポートによれば、探鉱費は2012年末から一年ごとに約10%ずつ減少を続けているが、最近減少のペースが緩やかとなってきている。2016年7～9月四半期の鉱物資源分野の探鉱費は前四半期の3.7%減にとどまり3億8,000万A\$だった。鉱物資源分野の中では石炭の探鉱費の減少が大きく、一年で34%減少して3,700万A\$となり、探鉱費全体の減少に影響した。

NT準州・QLD州・TAS州・SA州では依然として探鉱費の減少が続いているが、WA州・NSW州・VIC州で探鉱費は増加を開始している。また、鉱種では金・銅の探鉱費が増加している。

(2017年1月16日 シドニー 矢島太郎)

豪：Energy Resources Australia社、NT準州Rangerウラン鉱山の2016年生産量が前年比17%増

2017年1月12日、Energy Resources Australia社(ERA)はNT準州のRangerウラン鉱山の2016

年 10～12 月四半期のウラン酸化物 (U₃O₈) 生産量と 2016 年の年間生産量を発表した。2016 年 10～12 月期の生産量は鉱石破砕ミルのメンテナンスを行ったため、603t と前四半期の 666t よりも減少したものの、2016 年の年間生産量は 2,351t となり、前年の 2,005t よりも約 17%増加し、2016 年の生産目標として掲げた 1,900～2,300t を超える生産量となった。

ウランは市場への供給過剰によって価格の下落が続き、2016 年 12 月に 18US\$/lb まで下落したが、カザフスタンの Kazatomprom が 2016 年末に 2017 年の生産量を 10%削減することを発表してから、ウラン価格は上昇を開始し、価格は一時 24US\$/lb まで回復した。同鉱山閉山に伴う原状復帰にかかる費用が 5 億 700 万 A\$と見込まれているが、ERA は手元に十分な資金がないため、地元紙はウラン価格の上昇は ERA にとって順風になると報じている。

ERA は同鉱山の操業延長に関する合意を先住民 Mirarr 族から得られなかったため、2021 年 1 月までに同鉱山の操業を終了することが必要となっている。同鉱山は現在採掘が終了しており、貯蔵された鉱石の処理を行っている。

(2016 年 1 月 16 日 シドニー 矢島太郎)

インドネシア：政令改定によりニッケル鉱石及びボーキサイト輸出を許可

2017 年 1 月 12 日付地元メディアによると、インドネシア政府は一定の条件下でニッケル鉱石、ボーキサイト及びその他精鉱の輸出を許可する規則を発行した。規則は 2017 年 1 月 11 日に施行され、輸出の許可に加え、新しい株式売却規則、鉱業許可の延長に関する修正規則も含んでいる。

新規則では、ニッケル鉱業者は鉱石輸出に際して鉱物石炭総局庁の許可を得る必要があり、且つ、ニッケル品位 1.7%までの低品位鉱石を、製錬所の生産能力の少なくとも 30%までを国内製錬することが求められており、製錬能力を超える場合に限り輸出が可能となるという。ボーキサイトはアルミナ Al₂O₃、42%以上の高品位鉱石の輸出が認められる。

(2017 年 1 月 16 日 ジャカルタ 山本耕次)

インドネシア：Vale Indonesia、ニッケル鉱石輸出はマイナスの影響を与えるとコメント

2016 年 1 月 14 日付地元メディアによると、PT Vale Indonesia はインドネシア政府が発行した政令 2017 年第 1 号に関し、ニッケル鉱石の輸出再開はマイナスの影響を与えるとコメントした。PT Vale Indonesia 取締役社長 Nico Kanter 氏が地元紙の取材に対して述べたもの。

インドネシア政府は、先週鉱業活動に関する政令 2010 年第 23 号の修正である政令 2017 年第 1 号を施行し、条件付きでの低品位ニッケル鉱石の輸出再開を容認した。また、エネルギー・鉱物資源大臣規則 2017 年第 5 号では、ニッケル品位 1.7%以下の鉱石を製錬能力の 30%まで国内処理を義務付け、処理能力を超えた量は輸出可能と規定している。

Nico 氏は、鉱石輸出が明らかになった 1 月 12 日以降ニッケル価格は下落しており、この価格下落が長く続くことで製錬会社と国家収入に直接影響を与えるであると予測しているという。加えて同氏は、高品位ニッケルの非合法的な輸出を防ぐためにモニタリングと法制強化が必要であることを強調した。

(2017 年 1 月 16 日 ジャカルタ 山本耕次)

インドネシア：PT Freeport 社が鉱業事業契約を IUPK に変更することに同意

2017 年 1 月 16 日付地元メディアによると、PT Freeport Indonesia 社 (PTFI) は、現行の鉱業事業契約 (Contract of Work) を新政令 2017 年第 1 号に基づいた特別鉱業事業許可 (IUPK) に変

更することに最終的に同意した。この変更により、同社は銅精鉱の輸出が延長可能となる。

PTFI 広報担当者 Riza Pratama 氏は地元紙のインタビューに対して IUPK への変更を認め、一方、IUPK 内の諸条件についてインドネシア政府と法的及び財政的な保証を得たいとの考えを示した。

PTFI は東ジャワ州 Gresik における銅製錬所建設にコミットしているが、現時点では進捗率は 14%であると言われている。同社は製錬所建設に 2.2bUS\$の資金を、また、グラスベルグ鉱山の坑内開発に数十億 US\$の資金を投入する予定であり、このような巨大な投資には IUPK の期間を 2041 年まで延長する必要があると主張している。

(2017 年 1 月 17 日 ジャカルタ 山本耕次)

中国：2017 年再生鉛における新規稼働生産能力は 48 万 t になる予想

地元統計情報によると、中国 2017 年再生鉛における新規稼働生産能力は約 48 万 t に達する見込み、主に中国東南地域に集中している。しかしながら再生鉛の実際生産量は限られており、生産能力の半分にも満たない。

<2017 年に稼働予定の再生鉛製錬プロジェクト>

- ・志成有色は環境保護の規制に基づき、2016 年 4 月に生産を停止した。生産能力を拡張し、再生鉛の年間生産能力を 3 万 t から 6 万 t に引き上げ、2017 年初めに生産開始する予定。
- ・天能電源の 10 万 t 新規増設再生鉛プロジェクトはテスト段階に入り、年間生産能力 14 万 t の破碎生産ラインを新規増設した。同社は 2017 年 3 月にその拡張プロジェクトを操業開始する。
- ・新春興再生資源集団は 2016 年上半期に 55 万 t の拡張プロジェクトの建設を完了し、現在関連手続きの申請を行っている。2017 年に 25 万 t の生産能力を稼働できる見込み。
- ・江西金洋冶金は 2016 年末に生産開始する予定だが、資金投入が比較的多いため、プロジェクトの進展が現在遅れている。2017 年 1 月に操業開始予定。
- ・2016 年の再生鉛新規建設プロジェクトは、2015 年より若干増えており、数多くのプロジェクトは 2017 年に生産開始する予定。祥雲飛龍及び馳宏亜鉛・ゲルマニウムはそれぞれ生産能力 10 万 t の再生鉛プロジェクトを建設している。また 2018 年に、天津東邦鉛資源は再生鉛生産能力を 16 万 t/年に引き上げる見込み。

(2017 年 1 月 12 日 北京 森永正裕)

中国：2016 年銅業界の十大ニュース

安泰科による、2016 年銅業界の十大ニュース。

1. 中国金属業界最大の海外買収プロジェクトであるペルー・Las Bambas 銅鉱山生産開始

2016 年 1 月 28 日、中国五鉱集团公司（以下“中国五鉱”と略称する）傘下の五鉱資源有限公司傘下のペルー・Las Bambas 銅鉱山が正式に生産開始した。中国五鉱は国内最大な銅鉱生産企業及び世界上位 10 位の銅鉱生産企業の 1 社になる見込み。

2. チベットで国内最大の 1,000 万 t レベル単体銅鉱床を発見

3. アメリカ最終裁定中国生産のシームレス精銅パイプに反ダンピング課税

4. 法律に基づき、広西有色金属集団は破産段階入り

2016 年 9 月 12 日、広西チワン族自治区南寧市中級人民裁判所は、広西有色金属集団有限公司の破産を宣告した。広西有色金属集団は、最大の再生銅製錬企業として、30 万 t の再生銅製錬能力を保有していた。

5. 2016年11月の上海銅先物の月間契約数は30%激増
 6. 海亮株式は、Luvata Group 集団と傘下3社銅管企業の買収契約を締結
 7. リチウム電気銅箔に関する拡張ピークを迎える
 8. 世界初の低酸素銅棒生産ラインが稼働
 9. 洛陽モリブデン業、DR コンゴの Tenke 銅コバルト鉱山への買収統合が承認を獲得
 10. 金龍集団は、重慶市万州経済開発区と協力協定に合意
- (2017年1月12日 北京 森永正裕)

おことわり：本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行ってはおりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。
